

飯活人

キムジハ [著]

高崎宗司
中野宣子 [編訳]



갑자
설날
지하



飯活人

キムジハ [著]

高崎宗司
中野享子 [編訳]



御茶の水書房

編・訳者紹介

高崎宗司（たかさき そうじ）

一九四四年（昭和一九年）、茨城県水戸市に生まれる。一九六七年、東京教育大学文学部卒業。一九七〇年、同大学院中退。思想の科学社で雑誌の編集に従事。一九八六年から津田塾大学助教授、専攻は近代日朝関係史。著書に『朝鮮の土となった日本人——浅川巧の生涯』（草風館）、訳書に『韓国民衆史』（韓国民衆史研究会編著、木犀社）、共訳書に『武器の影』・『D』（黄智暎著、岩波書店）等がある。

中野宣子（なかの のりこ）

一九四九年（昭和二十四年）、福井県出身。韓国・延世大学校韓国語学堂修了。

飯・活人

発行——一九八九年十月二〇日 初版第一刷

著者——キム・ジハ

編訳者——高崎宗司・中野宣子

発行人——橋本盛作

発行所——株式会社御茶の水書房

〒一〇二 東京都千代田区九段北一八二二

電話〇三二六五／五七四六／振替東京八一四七七四

装幀——岸願樹郎

印刷・長野印刷商工株式会社／東洋経済印刷株式会社

製本・東洋経済印刷株式会社

ISBN4-275-01353-0 C0036

Printed in Japan

日本語版への序文

広範囲な生命破壊が世界を支配する。

生態系破壊と公害から核に至るまで、〈殺し〉の秩序が世界を破壊する。西欧工業文明の崩壊の危機の前に、人類は〈活人〉、つまり、新しい生の想像力を要請されている。ここに収められた文章は、そうした要請に応じて書かれたものである。〈水俣〉と〈イタイイタイ〉の衝撃以後、日本の生命運動は、未来の日本の新しい面として見えている。韓国と日本、両国民衆の未来の〈活人〉のために、この翻訳版が架け橋になってくれることを期待する。

困難な条件の中で翻訳を引き受けてくれた高崎宗司さんと中野宣子さん、そして、出版を引き受けてくれた御茶の水書房に感謝する。

一九八九年八月二四日

韓国 ソウルにて

キム・ジハ

飯・活人
目
次

口絵

日本語版への序文 キム・ジハ

i

飯

創造的統一のために 〈ロータス賞〉受賞演説

人間解放の鍵である生命

13

3

働く神様

57

私は飯である

83

天地クッ

113

糞または広大

137

活人

鳳仙花 157

蘭 161

気が滅入る人たち 169

禿頭 177

オラン
於蘭よ！ 181

家 185

公害 199

お金 211

訳注 231

キム・ジハについて 高崎宗司 239

飯

創造的統一のために

――ヘロータス賞――受賞演説――

ありがとうございます。

私のような別にこれといってとりえない人間のために、この世から逐われたみすぼらしい人間のために、ヘロータス賞＜受賞に努力してくださった方々、授賞を決定された方々、そしてその間、賞を保管しておいてくださった方々、それを伝達してくださった池学淳主^{チハクシン}教、この席を設けてくださった教区の兄弟たち、そして今日ここに参席してくださったすべてのみなさんに、感謝いたします。また、この場をかりて、今回私へのヘブルーノ・クライスキー人権賞＜授賞を決定したヘクライスキー人権賞委員会＞にも、同じように感謝の意を表したいと思います。

私がヘロータス賞＜受賞決定の報に初めて接したのは、一九七五年秋、監獄でのことで

した。そのときの私の心境は、一言で言って、私のような人間に、はたして偉大なアジア・アフリカ・ラテンアメリカの全民衆の名においてなされる〈アジア・アフリカ作家会議〉の決定を受諾するに足る資格があるのだろうか、ということでした。そのときのその惨澹たる心境は今も同じであり、また、今回の〈クライスキー人権賞〉についても同じです。

率直に申し上げて、私は、昔も今も相変わらずとりえない人間、この世から逐われ、九万里長天に寄るべくもなくさまよう、みすばらしい一人の広大の魂^{ソウル}であり、生ける中陰身^{ミダリ}にすぎません。私はけっして、周の国の食べものだからといってそれを拒み、首陽山のわらびを食べてついには飢え死にした、竹のように節操の固いソンビ^{ソンビ}でもありませんし、熱い血と虹の光に輝く鋼鉄のような英雄的な闘士では、さらにありません。私は風が吹けば倒れ、風がやめば立ちあがるただの草であり、その草の魂であるだけです。

しかし、賞は二つとも、私一人に対してだけではなく、私同様に別にこれといったとりえのない無数の人々、この世から逐われ、果てしない苦海にさまよう多くの生ける中陰身たち、しかし、風が吹けば倒れはするものの、風が吹くより先に倒れ、風がやめば起きあがりはするものの、風よりも先に起きあがる、知恵があり根気がある民衆、すなわちわれわれ民衆のその苦痛とその英知と七転八起の緩慢ながらも根強い、その不可思議な生命力に満ちた生に対して、与えられたのです。

アジア・アフリカ・ラテンアメリカの全民衆の悲しい運命は、まさしく韓国の民衆のそれと一致し、また、私の運命と一致しています。アジア・アフリカ・ラテンアメリカの全民衆の、その底知れない知恵とその粘り強い闘争は、まさしく、韓国の民衆の知恵と闘争に一致し、また、私の生もそれに一致させようと努力してきたところのものでした。この一致をもって、私はあえて受賞を決断しました。

アジア・アフリカ・ラテンアメリカの全民衆は、ヨーロッパ人が強要した数世紀にわたる悲惨と死の暗黒の真っ只中で、悲惨と死の暗黒それ自体をそのまま逆転して、ヨーロッパ人までも含む全人類と全生命系に燦爛たる復活をもたらすところの世界史的な大転換に向かって前進しています。東西両ブロックを問わず、ヨーロッパ人がアジア・アフリカ・ラテンアメリカに強要してきたものは、物神崇拜と速度崇拜と暴力崇拜であり、要素論と二元論と欲望の体系と生命軽視の思想でした。

これに対する第三世界の対応の一つである国粹主義的傾向さえも、そうした強要の結果であり、また、その強要された内容の繰り返しであります。特に日本の軍国主義・帝国主義・新植民主義は、ヨーロッパ帝国主義のもっとも悪質な部分を選び分けて吸収し、さらに悪質に発展・深化させることで、第三世界の民衆に対する新しい巨大な悪魔として立ち現れているのであり、われわれは今後、日本に対して特別充分な準備をしなければならぬ必要性に直面しています。

無数の民衆が、代々にわたって搾取され、抑圧され、疎外され、虐殺されてきました。

マスメディアと非人間化された教育制度の悪魔的な威力の下で、全面的かつ持続的に洗脳され、民衆の精神のおよび社会的生活の全面で、あらゆる形態の奇怪な相対縁起*、すなわち悪循環が深化させられ、いまやそれは絶頂に達したように見えます。民衆の精神のおよび社会的生活の全面で、主体が喪失させられ、錯綜した混淆現象が普遍化し、分裂・汚染・神経疾患・無気力・個性喪失、そして加虐・被虐等、暴力的な人間関係がはびこっています。生態系はひどく破壊され、資源は枯渇させられ、大地の生命と人間の生命が、殺人的な労働と無節制な消費と無制限な速度と無限定な暴力によって消耗され、病み、世の中は悪魔・畜生・地獄の三悪道を彷彿とさせる、文字通りの奈落に変貌しており、民衆は大地から根こそぎにされ、その家族は解体され、五大洋・六大州の荒野と海と暗い都市を彷徨する幽霊に、生ける中陰身に転落しています。

人間のあらゆる知恵と知識、科学技術と政治・経済・社会制度は、それ自体が持っている人類と自然の生命の解放・完成という本来の使命と機能を失ってしまい、生命に反対し、生命を破壊する悪魔的傾向に奉仕しています。

われわれは、この悲惨と死の暗黒の真っ只中で、その暗黒が持っている両面性、暗黒の意味、その矛盾の神秘を発見することで、悲惨と死の暗黒それ自体をそのまま逆転し、ヨーロッパ人やいろいろな形で存在する民衆の敵さえも含んだ全人類と全生命系に、燦爛

たる復活をもたらすところの世界史的な大転換をなしとげなければならない歴史的責任を負っています。われわれはその責任を完遂するために、〈尊厳な生命の尊重と愛〉という、普遍の真理を生活のうえで具体化させ、新しく幅広い世界観を創出しなければならず、霊性的でありながらも共同体的な、新しい生存様式を創造しなければなりません。人間と自我、人間と人間、人間と自然の間に、決定的な親交と平和を成就させる生命の世界観・生命の存在様式を出現させなければなりません。

これは、われわれ韓国民衆を含むアジア・アフリカ・ラテンアメリカ三大大陸の、これといつてとりえない無数の人々、この世から逐われ、果てしない苦海をさまよう数多くの生ける中陰身たち、しかし、風が吹いて倒れるときには、風が吹くより先に倒れ、風がやめば起きあがるが、風よりも先に起きあがる、という知恵を持つ根気強い民衆が、それ自身の蓄積された苦痛と、その苦痛を通して獲得した知恵を担保にして果たさなければならぬ歴史的役割なのです。

恨ハルムの蓄積のない所では、恨の克服もありません。蓄積された恨のそのとてつもない切り崩しの力によってのみ、恨自体は消滅します。飢えた人が飯を求めるように、喉の渴いた人が水を求めるように、子供が母親を求めるように、仏を渴仰し待つ心、仏に出会うことは難しいという思い——その深い恨がなくては、本当の解脱に到達することはできません。しかし、この逆説的な転換は、恨の反復と復讐の悪循環を断ち切る聡明な断、霊性的

でありながらも共同体的な断、すなわち決断を条件にしてのみ可能なのです。

決断は勇氣です。本当の勇氣は、夜を受けいれる勇氣、泥沼を受けいれる勇氣、苦痛と絶望と頹廃さえも受けいれる勇氣です。土が糞を拒絶しないのは、五穀が豊かに実を結ぶためです。この勇氣を民衆は、すでに勇氣とは呼びません。それは生命の本性であるからです。

「ロータス」はわが国の言葉で「ヘンコンコッ」です。私自身、そして皆さん、韓国の民衆と第三世界の全民衆、全人類と全衆生の生命の蓮の花は、泥沼の中でのみ咲くのです。われわれが、悲惨と死の暗黒をそのまま転換する「復活」を、穢土の中で穢土全体をそのまま浄土に変える「解脱」を、濁流の中に入り永い間待って、その濁流全体を自ずから清めてしまう「道」を語るもの、それがほかならぬ蓮の花です。それは十字架であり、優しさ、すなわち生命です。そして、それがいわゆる「受動的積極性」です。

受動的積極性こそ真の勇氣であり、真の決断であり、生命を本来あるがままに甦らせる、生命自身のもっとも生命らしい活動様式です。そして、まさしくそれが「ロータス」すなわち蓮の花です。

現代は後天開闢の時代であり、陰開闢の時代です。いままでの人類の文明史は、先天時代であり、陰と陽が葛藤する時代、すなわち陽が支配する時代でした。男性支配の歴史であり、家父長的文明であり、怨恨と相剋が支配する時代でした。抑圧・搾取・差別・拷問

・虐殺・謀略・陰謀・葛藤・派閥争い・戦争・反乱・革命が支配し、権謀術策・男性的勇氣・残酷な霸道・毒々しい抵抗・攻撃欲・征服欲・名誉・速度・物量・財産等が支配的な価値であり、無慈悲な弾圧・巧妙なでっちあげと、武装闘争・テロリズム・集団的報復・暴力的人間支配と普遍的な生命の抹殺の悪循環が圧倒する歴史でした。強弱不同・男女不同・貴賤不同・貧富不同は当然視されていました。この陽の原理が覇権を握って作りあげた文明が、まさしくヨーロッパ文明です。

今日、後天開闢の時代は、陰と陽が調和する時代、すなわち陰が支配し始める時代です。女性と男性が平等大同をなすとげる、すなわち女性的なものがその支配を広げていく歴史であり、新しい形の母権が中心になっていく文化の時代であり、解冤と相生の時代です。平和・和解・親交・大同・統一・一致・自由・平等・愛・慈愛・解放・幸福がもっとも重要な価値となり、女性的な優しさや寛容、千々に引き裂かれても静かにほほえむ忍耐、悪魔的傾向にとらえられた者を鞭打つことが本当に不可避なときでも、最後まで待った末に涙を流して、自分の胸を叩きながら打つ愛の鞭、暴力・非暴力の区別がすでに消滅した新しい社会運動、そして、生命に対する普遍的な尊重と愛が圧倒し始める歴史です。強弱平等・男女平等・貴賤平等・貧富平等が、この時代には当然のこととなるでしょう。

この転換は、先天の中に潜んでいた後天を先天の枠内で拡張させることで根本的に先天を乗り越える、受動的でありながらも積極的な転換です。この転換がまさしく復活であ

り、この転換がまさしく断であり、この転換がまさしく今日、わが韓国民衆を含むアジア・アフリカ・ラテンアメリカの全民衆が遂行しなければならない、世界史的な責任の内容なのです。

この大転換は、何よりもまず精神開闢、すなわち文化的大変革を前提にします。転換と変革の主体はもちろん民衆です。そして民衆は、民衆自身で、すでに先天の枠の中で後天精神・後天生存をひそかに育ててきました。今日、韓国を含むアジア・アフリカ・ラテンアメリカの、すべての作家・芸術家・知識人・科学者と宗教人の任務は、民衆自身が主体的に、〈尊厳な生命に対する尊重と愛〉という普遍的な真理をすべての価値観の基礎とする、霊性的で共同体的な生存様式、すなわち、民衆自身の中にすでに潜んでいる後天を新たに自覚的な形で顕わし拡張すること、民衆の一員として、民衆の口として、それを表現し、発展・深化させ、これに献身的に奉仕することです。この任務の即時的・積極的遂行が、まさしく精神開闢、文化的大変革の始まりになるのです。

たとえば、風になぶられる一本の草のように、取るに足りない、この世から逐われ九万里長天をさまよう、みすばらしい広大の悲しい魂のかげらにすぎない私ではあっても、開闢に向かう、復活に向かうわれわれ民衆とアジア・アフリカ・ラテンアメリカの全民衆の、苦痛に満ちた前進の中に、私に与えられた泥沼の生、蓮の花、他人には簡単に理解されない私だけの十字架を負って、私はいつもそこに皆さんと共にいるでしょう。